

本校の評価の取り組みについて

教 務 部

平成12年12月の教育課程審議会の答申を受け、平成13年4月27日付けで指導要録の改定に関する初等中等教育局長通知が出され、新教育課程における評価のあり方が示されることとなった。それにより観点別評価だけでなく評定も含め、これまでの絶対評価を加味した相対評価から絶対評価（目標に準拠した評価）をすることになり、教務部として検討をはじめた。

1. 新学習指導要領の評価に向けた準備

本校では、平成14年度からの新学習指導要領実施に際して評価をどのようにしたらよいかの検討を、試行期間中の平成13年度よりはじめた。

4月に教務部を中心としたメンバーで「絶対評価ワーキンググループ」を発足させ、絶対評価についての検討を開始し、6月には講師として筑波大学助教授の清水静海先生をお招きしての講演会を行った。さらに10月には校内学習会として英語科の提供により文部科学省教科調査官の平田和人先生の講演会のVTRを視聴した。そして、11月には「本校における絶対評価についての提案」を行い、以下のような日程で評価計画の準備を行うこととした。

月 日	担 当	項 目
2月初旬まで	教務	評価に対する基本方針、単元別テスト・期末テストの位置づけ
2月22日まで	各教科	4観点の評価の方法の検討
3月初旬	教務	教官会議にて各教科の4観点の評価の方法提案
3月中旬まで	教務	年間行事計画と単元テスト・期末テスト計画完成
4月7日まで	各教科	年間指導計画の完成、評価規準の完成 各単元・領域・分野ごとの評価の方法の計画表完成
4月から	学校全体	新指導要領による指導と評価の実施、新通知表の観点の作成
4月末	副校長	保護者への評価についての説明会（育友会総会時）
9月30日まで	教務	新通知表完成
10月初旬	各教科	前期期末テスト実施
10月中旬	学担	前期通知表渡し保護者懇談

2. 具体的な取り組み

(1) 各教科（必修、選択）

学習指導要領をもとに各教科で年間指導計画、評価規準、各単元・領域・分野ごとの評価方法の計画表を作成し、それに沿って授業を進めるようにした。

(2) 各種テストについて

本校はこれまで、中間テスト、期末テスト、休み明けテスト（春、夏）、さらに3年生は実力テスト2回と金沢市統一テスト（2回）を行ってきた。しかし、平成14年度より中間テストを廃止し、新たに単元テストを行うことにした。

① 単元テスト

初めての試みであるが、これは各教科が各単元の終わった段階でバラバラに行うのではなく、定期テストのように日を定め、1日で全教科実施するものである。4月と教育実習のある9月以外は月1回のペースで行っているが、すべての教科が毎行っているわけではなく、各学年の各教科単位で進度にあわせて行うかどうかを決めている。したがって、同じ教科でも学年によって実施したり、しなかったりということになる。

このテストの趣旨は、基礎的基本的な知識理解ができているか、つまり評価の「Bおおむね満足できる」に達しているかを確認するために実施しようというものである。ただし、職員間では共通理解ができているものの、実際にはA評価に踏み込んだ出題をしている教科や出題を観点別にするなど教科によって特長がある。

B評価に達しているかを確認することが目的なので、合計得点や平均点、度数分布表を出すなどの成績処理は行っておらず、各教科の満点も統一する必要がないためまちまちで、教科によっては「合格、不合格」としているところもある。

テスト時間は30分を目安にしているが、必要に応じて時間を短くするなどの調整をしている。そのため、午前中で終わることもあるが、採点業務もありテスト後は授業をしていない。

このテストで「Bおおむね満足できる」に達していないと判定された生徒に対しては、昼休みや放課後を利用して再テスト、講義などの補充プログラムを実施し、何とか全員が「Bおおむね満足できる」に到達できるように支援をしている。

単元テストを実施してみたの先生方の意見として、

- ・授業で評価についていつも考えるようになった
- ・生徒や先生の負担増が心配、授業以外の時間に行うので助かる
- ・B評価に達しない生徒が固定化する

などの意見があり、今後の課題である。

② 期末テスト

単元テストと違い期末テストでは、長期的な学習内容の理解や応用的・発展的な内容を問うもので「A満足できる」を評価するため前期・後期それぞれ1回の学期末テストを行うこととしている。ただし、単元テストと同様に、合計点や平均点を出すなどの成績処理はしていない。

③ 実力テスト

単元テスト、期末テストの他に3学年とも、休み明けテスト（春、夏）を実施している。さらに3年生は実力テスト2回と金沢市統一テスト（2回）があるが、これらのテストは、テスト連絡簿に各教科の得点と合計点を記入し、分布表を作成し生徒に配布している。

(3) 総合的な学習

本校では「柏樹タイム」という名称で、学年単位の取り組みをしている。内容的なことは省略するが、評価は学年末に行うこととした。

平成12年12月の教育課程審議会の答申（児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について）には

1. 学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて評価することが適当であり、数値的な評価は適当でない。
2. 各教科の学習の評価と同様、観点別学習状況の評価を基本とすることが必要
3. 学習指導要領に示された二つのねらい（①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、②学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること）などを踏まえ、各学校においてに基づき、観点を定めて評価を行うことが必要である。
4. 「学習活動」を記述した上で、指導の目標や内容に基づいて定めた「観点」を記載し、それらの「観点」のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記載するなど、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する「評価」の欄を設けることが適当である。

また、観点については

学習指導要領に定められた「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえ、「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」「学習への主体的、創造的な態度」「自己の生き方」というような観点を定めたり、教科との関連を明確にして、「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動にかかわる技能・表現」「知識を応用し総合する能力」などの観点を定めたり、あるいは、各学校の定める目標、内容に基づき、例えば、「コミュニケーション能力」「情報活用能力」などの観点を定めたりすることなどが考えられる。

というように、具体的な観点を挙げている。

本校ではそれらを鑑み、総合的な学習の観点を「学ぶ態度」、「学ぶ力」の2つとした。「学ぶ態度」とは関心・意欲・態度、主体性、協力性などを、「学ぶ力」とは課題設定能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、表現（プレゼン）力、思考・判断力、資料活用力などを含むものである。

(4) 行動の記録

本校では、通知表に記載する「行動の記録」の文言を、平成13年度より次のように定めている。

- ・授業と休み時間のけじめをつけ、遅刻も少ない。
- ・中学生らしい身だしなみを心がけている。
- ・自分から進んで挨拶できる。
- ・学級活動・生徒会活動・行事に積極的に参加し、仕事を責任を持って行う。
- ・クラスや集団の和を大切にして、仲良くやっつけようとしている。
- ・自分の考えを持ち、その場に応じた適切な行動ができる。
- ・公共の施設やものを大切に使用している。
- ・奉仕活動や掃除など学校の美化に協力している。
- ・健康の増進や自他の安全の保持に努めている。
- ・学校生活をよりよくするために、いろいろと工夫している。

また、評価する際に担任だけでなく多くの職員目で生徒を見ることができるようにするた

め、カードを使用している。(資料1)

このカードは、職員が何枚かずつ持っており、授業や部活動、休み時間や掃除など学校生活のさまざまな場面で、生徒の行動で気のついたことがあれば記入し、所定の各クラスのボックスに入れておくものである。

行動の記録カード (○：優れている △：努力を要する)			
		月 日 () 記入者	
項	目	評価	コメントなど
授業と休み時間のけじめをつけ、遅刻も少ない			年 組 氏名
中学生らしい身だしなみを心がけている			
自分から進んで挨拶できる			
学級活動・生徒会活動・行事に積極的に参加し、仕事を責任を持って行う			
クラスや集団の和を大切にして、仲良くやっていこうとしている			
自分の考えを持ち、その場に応じた適切な行動ができる			
公共の施設やものを大切に使用している			
奉仕活動や掃除など学校の美化に協力している			
健康の増進や自他の安全の保持に努めている			
学校生活をよりよくするために、いろいろと工夫している			

資料1

3. 通知表について

(1) 形式

平成13年度まではB4サイズの裏表で2つ折りし、各教科(必修, 選択), 総合, 行動の記録, 出欠を記載していた。(資料2)

平成14年度からはB5サイズで各教科の必修, 選択を1枚のシート(資料3)に, 総合学習, 行動の記録, 出欠も1枚のシート(資料4)にし, 都合10枚のシートで構成し, ファイルに綴じる形とした。本校は前後期制であり, 年間2回保護者との面談を通じて渡すこととした。

このような通知表の形式は生徒にとっても初めてのことであり, 評価方法も変わったため, 前もってプリントをつくり担任から説明をした。(資料5)

(2) 内容

各教科とも授業した分野や領域により, 4観点をいくつかに細分化した小観点を作成した。結果的には各単元に直接的にかかわる文言も多くあるが, 基本的には単元別ではなく観点別の通知表である。

(3) 作業日程

各教科1枚、生徒一人あたり10枚のシートになる通知表を作成するにあたり、下のような作業日程を決めた。我々も初めてのことなので遺漏のないよう慎重に作業を進めた。

8 / 22(木) 教務部会	通知表の検討
9 月中旬までに	行動、特別活動、出欠の記録を教務で印刷し、各担任に
9 月下旬	ファイル搬入、校長、担任、生徒氏名など各担任が記入
9 / 30(月).	各教科の観点の点検（学年会単位で）
10 / 1 (火)～10 / 9 (水)	通知表印刷（評価は手書きで）書式（余白、フォントサイズ、種類 明朝） →各教科
10 / 18(金)までに	氏名欄をゴム印で、評価は手書きで記入→各教科
10 / 21(月)	仕分け作業（柏樹ホール）→生徒は午前中で下校

(資料2)

<平成13年度前期通知表>

1 年生 学 習 の 記 録 (○：優れている △：努力を要する)

教科	学 習 の 内 容	評価	評定
国 語	国語に対する関心を持ち、進んで課題に取り組むことができる		
	自分の考えを、相手や目的に応じてわかりやすく書いたり話したりできる		
	文章の構成や内容を理解し、自分の意見を持つことができる		
	漢字・語句・語彙・文法について理解し、知識を身につけている		
	書写の書き方を理解し、字形を整えて書くことができる		
社 会	積極的に意見を述べたり、工夫したノートづくりができる		
	世界や日本の地域構成や、古代～中世の日本の歴史的事象を多面的・多角的に考える		
	課題学習で、資料を適切に選択・活用するとともに、わかりやすく表現することができる		
	世界や日本の地域構成や、古代～中世の日本の歴史の流れを理解し知識を身に付けている		
数 学	数字を身の回りのことがらにあてはめたり、自分で問題をつくろうとする		
	いろいろな法則について説明することができ、文章問題を筋道をたてて解くことができる		
	正負の数や文字式の計算ができ、方程式を解くことができる		
	いろいろな法則や性質、解き方を理解し、それを活用する		
理 科	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的に観察・実験などを行うことができる		
	自然の事物・現象の中に問題を見出し、仮説や予想をたて、論理的に考察し課題を解決する		
	観察・実験の基本操作を身に付け、それらの過程や結果および考察を表現することができる		
	自然の事物・現象に関する原理・法則などを理解し、知識を身に付けている		
音 楽	音や音楽への興味・関心を養い、音楽に親しみ、意欲的に表現や鑑賞することができる		
	曲想を感じ取り、歌唱や器楽で表現を工夫することができる		
	感じ取った曲想を歌唱や器楽で表現する技能を持つことができる		
	曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くことができる		
美 術	楽しく活動に取り組み、作品に対する愛着や思いやりを持つことができる		
	対象を観察し、その形や色、構成の美しさを感じとり、表現の構想をすることができる		
	形や色を表すための基礎的な技能を身に付け、表現に活用することができる		
	自然や美術作品に親しみ、基礎的な理解や見方をすることができる		
保 健 体 育	互いに協力しながら、公正な態度で意欲的に授業に取り組もうとする		
	チームや自分の課題を持ち、解決を図ろうとして活動の仕方を考え、工夫している		
	身に付いている個人技能や集団的技能を、さらに高めている		
	運動や健康・安全に関する知識を理解し、身に付けている		
技 術 分 野	コンピュータ活用等に関する技術に関心を持ち、知識と技術を進んで活用しようとする		
	技術を適切に活用して、工夫し創造する		
	コンピュータ活用等に必要の基礎的な技術を身に付け、適切に活用できる		
	コンピュータ活用等に必要の基礎的な知識を身に付けている		
英 語	ラジオ講座などを積極的に聞き、授業を意欲的に受けている		
	伝えたいことを英語で表現できる		
	英語を聞き・読み、相手の伝えたいことを正しく理解できる		
	英語の特徴と、さまざまな文化の違いを理解している		

(資料3)

平成14年度前期通知表 数学科 3 学年

3 年 組 番		氏名	
評 価 の 項 目 と 観 点			評 価
数学への 意欲・態度 の関心・	多項式の展開や因数分解に関心をもち利用している。	A B C	
	平方根の意味に関心をもち、平方根の四則を計算している。	A B C	
	2 次方程式に関心をもち、2 次方程式を利用している。	A B C	
	相似や相似の性質に関心をもち図形の性質を考察している。	A B C	
数学的な 見方や 考え方	多項式を用いて数量関係や図形の性質を考察することができる。	A B C	
	平方根の意味や四則の計算方法を考察することができる。	A B C	
	2 次方程式の解の意味やその解き方を考察できる。	A B C	
	数量関係から 2 次方程式を立式することができる。	A B C	
	相似や相似の性質を利用して図形の性質を考察し証明できる。	A B C	
数学的な 表現・ 処理	多項式の展開や因数分解ができる。	A B C	
	平方根の四則計算ができる。	A B C	
	2 次方程式を解くことができる。	A B C	
	2 次方程式を利用して問題を解決することができる。	A B C	
	図形の性質の証明を書いたり線分の長さを求めることができる。	A B C	
数量・ 図形など の知識・ 理解	多項式の展開の意味や因数分解の意味を理解している。	A B C	
	平方根の必要性や意味を理解している。	A B C	
	2 次方程式の解の意味や解き方を理解している。	A B C	
	2 次方程式を利用して問題を解く手順を理解している。	A B C	
	相似の意味、相似条件、平行線の線分の比について理解している。	A B C	

評 価 の 項 目 と 観 点		評 価
選択 A	操作活動などを通していろいろな方法で問題を解決している。	A B C
	自分の考えを人にわかりやすく説明することができる。	A B C
選択 B	数学的に事象をとらえ、論理的に考えることができる。	A B C
	数量や図形の内容や概念や原理・法則などを理解している。	A B C

担当者	浜口国彦 松原敏治 戸水吉信
-----	----------------

(資料4)

平成14年度前期通知表

行 動 の 記 録 (○：優れている △：努力を要する)

授業と休み時間のけじめをつけ、遅刻も少ない。	
中学生らしい身だしなみを心がけている。	
自分から進んで挨拶できる。	
学級活動・生徒会活動・行事に積極的に参加し、仕事を責任を持って行う。	
クラスや集団の和を大切にして、仲良くやっつけようとしている。	
自分の考えを持ち、その場に応じた適切な行動ができる。	
公共の施設やものを大切に使用している。	
奉仕活動や掃除など学校の美化に協力している。	
健康の増進や自他の安全の保持に努めている。	
学校生活をよりよくするために、いろいろと工夫している。	

特別活動の記録

生 徒 会 活 動	学 級 活 動	部 活 動

出 席 の 記 録

出席停止・忌引き	欠 席 日 数	遅 刻 回 数	早 退 回 数

1 年 組 番	氏名		担任	
---------	----	--	----	--

評価と通知表について

通知表は、次のことを生徒や保護者の方にお知らせして、自分の学習状況や学校生活を振り返る材料とするものです。

1. 総合学習や選択も含めて、授業で学習したことがどれだけ身についたか（教科の評定）
2. 挨拶や服装、掃除など日常の学校生活で、社会性が養われているか（行動の記録）
3. 係り活動や部活動の様子、そして欠席や遅刻など出欠の状況（特別活動、出欠の記録）

附属中学では「学校生活の記録」という名前で前期、後期に出していましたが、4月当初にお知らせしたように、今年度から通知表が変わります。各教科は1枚ずつのシートに、行動の記録、特別活動、出欠の記録も1枚になり合計10枚になります。また、内容も特に1.（教科の評定）の部分が大きく変わります。さまざまな理由があるのですが、以下に説明しますので、よく理解した上で今後の学習に役立ててください。

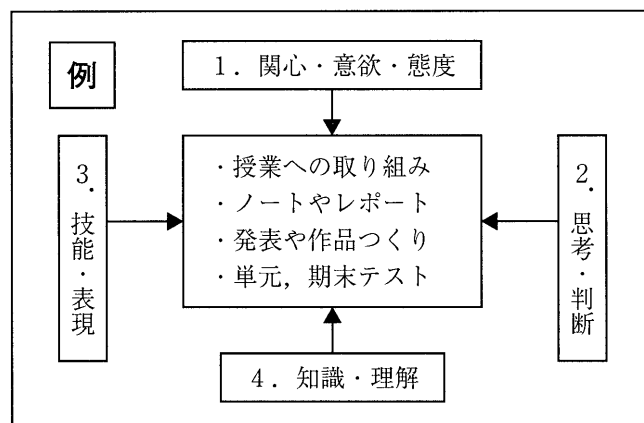
観点別評価について

各教科には、これまで小観点の評価と教科の評定欄がありましたが、今年度からは「4つの観点」を細分化した小観点の評価だけになります。

「4つの観点」とは

1. 関心・意欲・態度
2. 思考・判断
3. 技能・表現
4. 知識・理解

というものです。



これは、みなさんが授業中に学習しているさまざまな場面や状況などを、すべての教科が4つの角度から多面的に見て評価しようということです。通知表では、さらにその4つの観点を細分化し、小観点としてより具体的でわかりやすい言葉にして評価しています。教科によって言葉は多少異なりますが、基本的な考え方はどの教科も同じです。（国語だけは5観点になります）

右頁のように、小観点の評定はA B Cの3段階で表してありますが、いずれも各教科が設定した学習の目標に対して、どの程度到達しているかという「絶対評価」をしています。

なお、昨年度までは各教科の総合評定を10段階で記載しており、今年度も教科全体の総合評定を出すつもりでしたが、小観点を設定することで具体的な学習の状況を評価することができますので、小観点の評定のみとしました。

小観点の評価

- ・ A 十分満足できる
- ・ B おおむね満足できる
- ・ C 努力を要する

絶対評価について

平成13年度までは、「絶対評価を加味した相対評価」で通知表をつけてきましたが、今年度からは絶対評価に変わりました。

学習したものを単にテストの点のような結果だけで評価するのではなく、左頁の例のように学習のさまざまな場面の目標に対して、4つの観点から総合的に検討・判断しようというときに、他の人と比較する相対評価では意味がないということです。学習はあくまで本人の問題です。これからも自覚を持って学習に取り組みましょう。

絶対評価	「目標に準拠した評価」のことで、学習目標にどの程度到達したかによって評価されます。そのため、極端に言えばクラス全員が学習内容をきちんと理解できていれば、全員がA評価ということもあります。
相対評価	「集団に準拠した評価」のことで、クラスの中で、あるいは学年の中で何番目によく理解できているかを表すもので、上から何人までがA評価、次の何人がB評価というようにして出すものです。

テストについて

今年度から中間テストが廃止され、単元テストがほぼ月1回のペースで実施されるようになりました。この単元テストは、単元ごとに身につけてはいけない基礎的・基本的なものができるかを確認することを目的として行われます。通知表で言うとB評価の段階を達成しているかです。それに対して期末テストは長期的な学習内容の理解や応用的・発展的な内容を問うものです。通知表で言うとA評価に達しているかです。

この2つのテストは、学習内容がどれだけ身についたかを確認するものなので、合計点や平均点を出したり、度数分布表を出すことはしません。

それに対して、休み明け（春、夏）テストや3年の実力テスト（統一テストも）については、これまで通り合計点、平均点、度数分布表を出します。

それぞれのテストの意味を理解して、目標を持って学習に励むようにしてください。